

具象絵画 35歳以下の有望新人

おおたに ゆうか

絹谷幸二賞に大谷有花氏

おざわ

同奨励賞は小沢さかえ氏

決まる

35歳以下の優れた若手画家をサポートする趣旨で、昨年度新たに創設された「絹谷幸二賞」の第2回の受賞者が決まり、このほど主催者である毎日新聞社より発表された。本賞の絹谷幸二賞を受賞したのは大谷有花氏（1977年9月神奈川県相模原生まれ、32歳）、同奨励賞には小沢さかえ氏（1980年9月滋賀県大津市生まれ、29歳）が選出された。ともに女性画家、近年活躍中の有望洋画家家の受賞となった。



「黒い本―花色の対話―」
73×91cm（F30号） 2009年



大谷有花氏

「大谷有花展―Life―@左京区・MORI YU GALLERY KYOTO」がある。推薦者は原久子氏。

同賞は若手作家を応援があった。その結果、受賞候補者は26人。選考委員3人によるポートフォリオ審査や作品視察、2度に通る選考を経て受賞者が決定した。選考委員は委員長・本江邦夫（美術評論家・多摩美術大学教授）、中井康之（国立国際美術館主任研究員）、福田美蘭（画家）の3氏。賞の対象は、当該年（第2回は2009年）12月末現在、35歳以下の画家で国籍は問わない。同年国内で開催の展覧会に出品された具象的傾向の絵画に限定。筆またはそれに準じる画材・身体を用い、紙やキャンバスなどに描いた絵画が基本。その選考方法は、毎日新聞社が全国の美術館学芸員や評論家、ジャーナリストらに推薦を依頼し、この第2回では43人に依頼し26人から推薦の回答

が返ってきた。その結果、受賞候補者は26人。選考委員3人によるポートフォリオ審査や作品視察、2度に通る選考を経て受賞者が決定した。選考委員は委員長・本江邦夫（美術評論家・多摩美術大学教授）、中井康之（国立国際美術館主任研究員）、福田美蘭（画家）の3氏。賞の対象は、当該年（第2回は2009年）12月末現在、35歳以下の画家で国籍は問わない。同年国内で開催の展覧会に出品された具象的傾向の絵画に限定。筆またはそれに準じる画材・身体を用い、紙やキャンバスなどに描いた絵画が基本。その選考方法は、毎日新聞社が全国の美術館学芸員や評論家、ジャーナリストらに推薦を依頼し、この第2回では43人に依頼し26人から推薦の回答

が返ってきた。その結果、受賞候補者は26人。選考委員3人によるポートフォリオ審査や作品視察、2度に通る選考を経て受賞者が決定した。選考委員は委員長・本江邦夫（美術評論家・多摩美術大学教授）、中井康之（国立国際美術館主任研究員）、福田美蘭（画家）の3氏。賞の対象は、当該年（第2回は2009年）12月末現在、35歳以下の画家で国籍は問わない。同年国内で開催の展覧会に出品された具象的傾向の絵画に限定。筆またはそれに準じる画材・身体を用い、紙やキャンバスなどに描いた絵画が基本。その選考方法は、毎日新聞社が全国の美術館学芸員や評論家、ジャーナリストらに推薦を依頼し、この第2回では43人に依頼し26人から推薦の回答

が返ってきた。その結果、受賞候補者は26人。選考委員3人によるポートフォリオ審査や作品視察、2度に通る選考を経て受賞者が決定した。選考委員は委員長・本江邦夫（美術評論家・多摩美術大学教授）、中井康之（国立国際美術館主任研究員）、福田美蘭（画家）の3氏。賞の対象は、当該年（第2回は2009年）12月末現在、35歳以下の画家で国籍は問わない。同年国内で開催の展覧会に出品された具象的傾向の絵画に限定。筆またはそれに準じる画材・身体を用い、紙やキャンバスなどに描いた絵画が基本。その選考方法は、毎日新聞社が全国の美術館学芸員や評論家、ジャーナリストらに推薦を依頼し、この第2回では43人に依頼し26人から推薦の回答

が返ってきた。その結果、受賞候補者は26人。選考委員3人によるポートフォリオ審査や作品視察、2度に通る選考を経て受賞者が決定した。選考委員は委員長・本江邦夫（美術評論家・多摩美術大学教授）、中井康之（国立国際美術館主任研究員）、福田美蘭（画家）の3氏。賞の対象は、当該年（第2回は2009年）12月末現在、35歳以下の画家で国籍は問わない。同年国内で開催の展覧会に出品された具象的傾向の絵画に限定。筆またはそれに準じる画材・身体を用い、紙やキャンバスなどに描いた絵画が基本。その選考方法は、毎日新聞社が全国の美術館学芸員や評論家、ジャーナリストらに推薦を依頼し、この第2回では43人に依頼し26人から推薦の回答

が返ってきた。その結果、受賞候補者は26人。選考委員3人によるポートフォリオ審査や作品視察、2度に通る選考を経て受賞者が決定した。選考委員は委員長・本江邦夫（美術評論家・多摩美術大学教授）、中井康之（国立国際美術館主任研究員）、福田美蘭（画家）の3氏。賞の対象は、当該年（第2回は2009年）12月末現在、35歳以下の画家で国籍は問わない。同年国内で開催の展覧会に出品された具象的傾向の絵画に限定。筆またはそれに準じる画材・身体を用い、紙やキャンバスなどに描いた絵画が基本。その選考方法は、毎日新聞社が全国の美術館学芸員や評論家、ジャーナリストらに推薦を依頼し、この第2回では43人に依頼し26人から推薦の回答



「ずっと泣きたかったんだ Ich wollte immer weinen.」
162.1×324.3cm 2009年 ©Sakae Ozawa/photo:kenryu
Tanaka, mori yu gallery Courtesy of mori yu gallery
※現在、国立国際美術館「絵画の庭」展（4月4日まで開催）に展示中



小沢さかえ氏

を寄せた。以上の受賞者には賞状と賞金（本職場でも同じでしょう。

若い人が賞を得ることで一つのチャンスに恵まれることが大事なんです。今回受賞の二人が女性なのは時代の流れでもある、例えば東京藝術大学でも受験者の三分の二、合格者の五分の三が女性なんです。世の中にもっと進出してくるでしょう。男性も頑張らなくてはいい。時代の風潮が内向きになりつつあるのはよくない。この賞が若い人に弾みをつけたり、その仕事に光を当ててあげられたらと思う」と受賞者へのメッセージを寄せた。なお、第2回絹谷幸二賞の贈呈式は3月17日（水曜）、東京・千代田区の学士会館で行われる。